

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-230	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・104-903	改訂版 高等学校 現代の国語		

1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。
- 論理的に考え、適切に伝え合うための、確かな思考力・判断力・表現力を培う。
- 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
読解と論述		
■風が通るとき	人間関係について述べた文章の読解を通して、社会の中で他者と関わりながら自主自律の精神を養うにはどうすればよいのかについて考えられるようにした。(第2号・第3号)	p. 14～p. 19
対比の構造	対比構造について学習できる三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深め、国際社会の平和と発展のために必要なことについて考察できるようにした。(第5号) 文化・言語・習慣など、さまざまな面で自分とは異なる他者とどのように向き合うべきかについて、具体的な事例を通して考えることができるようにした。(第3号)	p. 20～p. 39
一般論と主張	常識とされている一般論とそれに対する主張が示された三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけることの重要性を認識できるようにした。(第1号) 実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 40～p. 61

論理とレトリック	言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自律の精神を養えるようにした。（第2号） 人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。（第1号） 実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。（第3号）	p. 62～p. 77
具体と抽象	具体と抽象の関係について学習できる三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。（第1号） 人と自然の共生における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。（第4号） 実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。（第3号）	p. 78～p. 105
批評する	作品の多様な見方を学び、豊かな情操や創造性を培うとともに、表現や構成の手法を学びながら文章を書く活動を通して、幅広い知識と教養を身につけられるようにした。（第1号・第2号）	p. 106～p. 135
比較する	現代社会の問題について述べられた文章と会話文の読解を通して、幅広い知識を身につけるとともに、自己と社会との関わり方について考察できるようにした。（第1号・第3号） 実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。（第3号）	p. 136～p. 173
背景を理解する	現代社会の問題点を理解し、そこで求められる責任や他者を敬い協力することの重要性について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした（第2号・第3号） 時間についての考え方を述べた文章を用いて幅広い知識と教養を養うとともに、抽象的な思考を通して真理を追究する態度を育めるようにした。（第1号） 実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。（第3号）	p. 174～p. 207
問題提起	筆者の問題提起が示された三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。（第1号） 命は自分のものか否かという、正解のない問題に取り組むことで、生命倫理について考察を深めら	p. 208～p. 224

	れるようにした。（第４号） 現代社会の問題点を理解し、そこで求められる責任や他者を敬い協力することの重要性について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした（第２号・第３号）。	
表現の実践		
話し言葉の技術	自身の思いを他者にわかるように伝えたり、他者と共感し合ったりすることの大切さを、活動を通じて理解できるようにした。（第３号）	p. 226～p. 229
書き言葉の技術	自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。（第２号）	p. 230～p. 241
言語技術の実践	調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。また、グループ活動によって個々の責任をはたす大切さを学ぶことで、主体性と他者を尊重する態度を身につけ、社会の形成に参画し、その発展に寄与できる力を養えるようにした。（第１号・第３号）	p. 242～p. 258
資料編・見返し		
グラフ・ポスター・パンフレット・新聞記事	実社会で広く用いられている資料や文章の特徴を学ぶことで、社会においてさまざまに発信されている情報を、自身の生活と関連づけながら正しく理解できるようにした。（第３号）	p. 260～p. 263
評論キーワード	主に論理的文章・資料などで用いられる言葉について、その意味やつながりを知ることで、抽象的かつ論理的な思考を深め、自国および他国の文化・社会への理解と国際社会への発展に寄与する態度を養えるようにした。（第１号・第５号）	p. 264～p. 279
見返し	各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。また、実社会でも必要とされる情報探索の方法を知ることで、主体的に学ぶ姿勢を身につけ、個人の能力を高められるようにした。（第１号・第２号）	前見返し 後見返し

３．上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第５１条２号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるようなコラム（「チェックポイント」「ズームアップ」「解説」）を随所に掲載した。
- 学校教育法第５１条第３号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。

編 修 趣 意 書

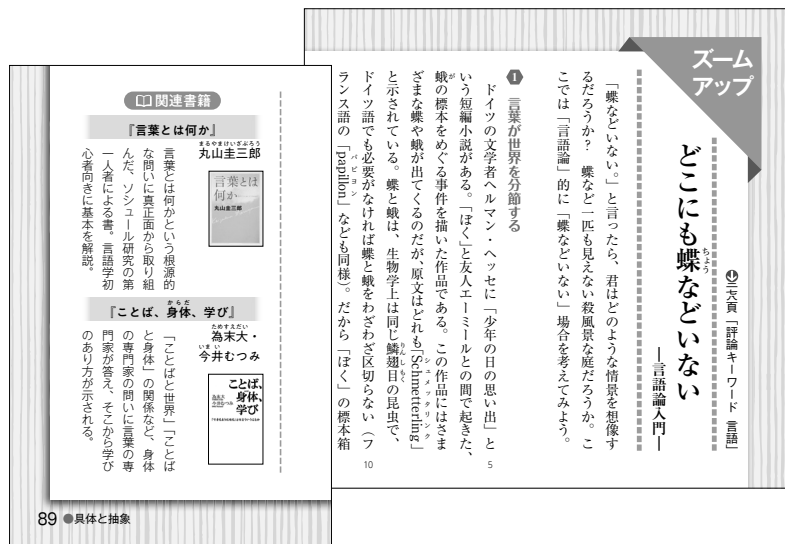
(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-230	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・104-903	改訂版 高等学校 現代の国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1)全体

- ①「読解と論述」「表現の実践」「資料編」の3編で構成した。「読解と論述」「表現の実践」においては、さまざまなテーマの論理的文章・実用的文章を掲載した。
- ②「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読解したり表現したりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。
- ③ 発表したり話し合ったりする活動を通して、教材のテーマについて理解も深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。



チェックポイント 1

指示語

1 指示語の働き

会話や文章の中では、ある物事や内容が別の言葉で示される
ことがある。その代表的な表現として指示語がある。指示語と
は、話し手と聞き手の関係を基準にして物事を示す働きをする
語で、主として左の表のようなものがある。語の最初に、「こ・
そ・あ・ど」がつくため、「こそあど言葉」とも呼ばれる。
指示語の使い方には、目の前のものを直接に指す場合と、話
している話題の中の何かを指す場合がある。

こ～	これ、この、こう、こんな
そ～	それ、その、そう、そんな
あ～	あれ、あの、ああ、あんな
ど～	どれ、どの、どう、どんな

そのファイル、
ここに置いて
ください。
どのファイル
ですか、これ
のことですか。

2 指示語の内容

文章を読む際には、指示語がどの
か（指示内容）を確認することが大
前にある場合と、後にある場合とが
ある。
●指示内容が指示語の前にある場合
たいていの人間に期待できそうな
ひと。そういうひととは信頼でき
い。他人のためになるが誰もがす
尽力するひと。それならますます
●指示内容が指示語の後にある場合
そこで、下人は、老後を、見下ろ
げよう言った。
「おれは極非道徳の序の役人など
に、指示語が指している内容を適
る。

探究の扉 比べ読み

「倫理一般」は存在しない

伊藤 藤 紗

倫理と道徳の違いを説明する前に、一つエピソードを紹介
させてください。それは私にとって、その違いを痛感し
ど思い知らされた出来事です。
当時小学校三年生だった息子を連れて、アメリカに出張
に行ったときのことです。
ホテルに到着し、買い物で街を散歩したときのこと。
向こうから、四十代くらいの太った女性がふらふらと揺れ
ながらこちらに近づいてきます。乱れた身なりと手を差し
伸べている様子から、物乞いをしようとしていることがす
ぐに分かりました。

私はとっさに息子の手をぐいと
るように通りの反対側に渡ってし
らましても、子供もいる状況で、
込まれたら大変だ。その一心でし
その直後でした。息子がパニッ
きをし始めたのは、なぜ、お母さ
たのか。なぜ、かわいそうな人に
僕がもし病気になるったら障害を持
ててく

①物乞い 他人に金銭や品物を恵んでく

- ④ 本編教材とあわせて学ぶことで理解が深まる教材を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。

- ⑤ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 読解と論述

- ・現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。
- ・単元内の題材の学習内容に関連性をもたせ、多彩な言語活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力、目的に応じて書く力を身に付けられるようにした。

V コミュニケーションの手段を考える

実用の文章 1

図・文章

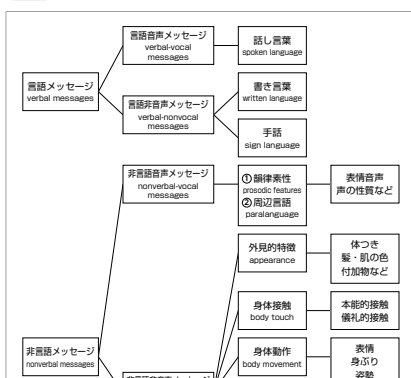
図を用いると、多様な情報を整理し、内容をわかりやすく提示したりすることも、図を文章とともに関連づけて読深めることができる。
ここではコミュニケーションの要素と、非言語コミュニケーションについて読み、考えたことを話し合ってみよう。

言語活動

1 人間が他の人間に伝えるメッセージには、言葉を使っている言語メッセージと、言葉によらない非言語メッセージがある。次頁の「資料1」の図と「資料2」の①～⑥の内容を踏まえて、次の(1)～(4)についてそれぞれ話し合ってみよう。

(1) 「手話」が「非言語メッセージ」ではなく「言語メッセージ」の手段であるのはなぜか。
(2) 南米から来た客と日本人とのやり取りの話は、図の中

資料1 コミュニケーションの要素



言語活動

1 筆者は「欲望は欲望によって駆動される」(二六・13)ことの例として「切手集め」(二六・6)をあげている。自分たちの経験の中から同じような例をあげて話し合ってみよう。
2 次の文章を読んで、「モノ消費」「コト消費」「トキ消費」のいずれかの例に言及しながら、「人は自分らしさを獲得するために消費するのだ」(二六・13)という考えについて、自分の意見を発表してみよう。

従来からの消費行動である、モノ(商品)を購入し、所有する消費形態は「モノ消費」、旅行、習い事、芸術鑑賞等の機会やサービスを消費する形態は、「コト消費」といわれています。一方、その時、その場所での体験できないスポーツイベントやフェス等で、感動を他の参加者と共有することともに、自らも参加者として盛り上がり、に寄り添う一体感を得る消費形態は「トキ消費」といわれています。近年、若者の消費形態は「コト消費」から「トキ消費」に移行しているといわれており、若者の「トキ消費」への注目が高まっています。(消費庁「令和四年版 消費生活白書」)

(3) 表現の実践

- ・汎用的な言語能力を身につけるための基本知識を解説し、適宜「読解と論述」の内容と関連をもたせ、相互に効果的な学習ができるようにした。

情報の聞き取り方

聞くトレーニング

目標

- ▼ 目的に応じて情報を聞き取る。
- ▼ 注意深く正確に聞く。

1 「聞き取る」ために

文章と異なり、音声はその場で消えてしまう。情報を含む音声聞き、その内容をその場で理解するには、訓練が必要である。つまり「聞こえる(hear)」ではなく「聞き取る(listen)」のためのトレーニングだ。その代表的なものに「スキミング(大意をつかむ方法)」と「スキニング(具体的な情報を採る方法)」がある。



(4) 資料編

- ・論理的な文章や、実社会の具体的な場面で用いられる言葉について、その意味やつながりを知ることで、抽象的かつ論理的な思考を深められるようにした。

社会・経済を知る10のワード

前近代において、人間は自然や共同体の一部、あるいは絶対的な神の前で無力な存在にすぎなかった。しかし近代になると、人間は自然・共同体・神から独立し、自分のことを自分で決める主体としての「個人」としての人間の理性が重視されるようになり、近代合理主義という思想が生まれた。また、共同体から解放された個々の人間が資本家や労働者となることで、資本主義社会・消費社会が生まれた。

前近代

古代・中世・近世を含む時代区分のこと。あくまで相対的な時代区分であり、一般的には近代の前の時代を広く指すときに用いられる。

近代

近世の後の時代区分のこと。西洋では市民革命の時代からロシア革命までで、日本では明治維新から太平洋戦争終結までを指すことが多い。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容										該当 箇所 [頁]	配当時数		
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等						話す・ 聞く		書く	読む	
					A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと						
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)					
対比の構造	風が通るとき	ウ・エ							ア	ア	14			1	
	私の中にある生命の歴史	オ							ア		20			1	
	水の東西	ウ・エ	イ						ア		22			1	
	【ズームアップ】文化	エ		ア	イ	ア					28	1			
	倫理と道徳	ウ・オ					イ	ア			30		3		
	【探究の扉】「倫理一般」は存在しない				イ	ウ					35	1			
一般論と主張	【チェックポイント1】指示語	カ									39				
	「大人になる」ための条件	オ							ア		40			1	
	「わらしべ長者」の経済学	ウ・エ							ア	ア	42			1	
	「異文化を理解する」とは	ウ・エ・オ					イ	ア			50		4		
	【チェックポイント2】文脈の理解	カ									56				
	【チェックポイント3】接続語	オ	ア								57				
論理とレトリック	コミュニケーションの手段を考える	カ	イ		ア・イ・ウ	ウ					58	1			
	論理的ということ	ウ・オ	ウ						ア	ア	62			1	
	コインは円形か	ア・ウ・エ							ア・イ	ア	67			1	
	根拠の妥当性を説明する		ア				イ・ウ				74		4		
	【チェックポイント4】要約	オ	ア								77				
	具体と抽象	いま平和とは	オ・カ							ア		78			1
ものとことば		ウ・エ	イ						ア		80			1	
【ズームアップ】どこにも蝶などいない		ア		ア	ア	エ					88	1			
人と自然の共生とはどういうことか		ウ・エ	イ				イ・ウ	ア			90		4		
【ズームアップ】環境問題のこれから		オ		ア	ア	エ					100	1			
【チェックポイント5】具体例		カ									101				
批評する	目的に合わせて表現を工夫する	エ					イ・ウ・エ	イ			102		1		
	無意識を滋養する術	ウ・エ					イ・ウ	ア			106		1		
	【ズームアップ】芸術の価値とは	ア		ア	イ	エ					118	1			
	『羅生門』の最後の一文	ウ・エ					イ・エ				119		1		
比較する	【言語活動の実践】批評文を書こう	イ・オ					ア・イ				132		2		
	政治的思考	ウ・エ	ア						ア・イ	イ	136			1	
	【探究の扉】未来をはじめる		ア		イ	ア					142	1			
	【言語活動の実践】テーマを決めて話し合おう	イ	ウ		エ・オ	ウ					146	1			
	会話という現象	イ			ア	ウ					148	1			
	【探究の扉】スライダーズ・ミックス	イ			イ	ウ					158	1			
背景を理解する	複数の資料を読み比べて考えをまとめる		イ				ア・イ	ウ			167		2		
	【チェックポイント6】文章構成	オ									172				
	私有への欲望	ウ・オ							ア・イ	イ	174			2	
	ポスト・プライバシー	ウ・エ・カ					イ				182		1		
	【ズームアップ】情報とメディア		エ	ア	ア	ア					190	1			
	資料を分析して考えをまとめる		ウ				ア・イ	ア			192		2		
問題提起	【チェックポイント7】比較	ア	ウ								197				
	時間と自由の関係について	ウ・オ	イ						ア		198			1	
	【ズームアップ】近代と時間の関係	カ		ア	イ	ア					206	1			
	【チェックポイント8】文末表現	オ									207				
	退屈の反対は快楽か	ア・オ							ア		208			1	
	命は誰のものなのか		ア				イ・エ	ア			210		2		
話し言葉の技術	【ズームアップ】科学と生命を考える	オ		ア	イ	ア					215	1			
	他者を理解するということ	ウ・エ							ア		216			2	
	【ズームアップ】自己と他者の理解とは	カ		ア	オ	エ					224	1			
	【聞くトレーニング】情報の聞き取り方	イ									226				
書き言葉の技術	【話すトレーニング】説得力のある話し方	イ									228				
	【文章トレーニング1】文章構造を理解する	オ									230				
	【文章トレーニング2】要約する	オ	ア								232				
	【文章トレーニング3】比較する		ウ								236				
	【文章トレーニング4】論証する		イ・ウ								238				
	【文章トレーニング5】意見文を書く	オ	オ								240				
言語技術の実践	【実践1】レポート		エ・オ				ア・イ・ウ	ウ			242		5		
	【実践2】プレゼンテーション		エ・オ		ウ・エ・オ	イ					247	4			
	【実践3】ディベート・討議		エ・オ		イ・エ・オ	ウ					252	4			
資料編	グラフ・ポスター・パンフレット・新聞記事	エ	ウ・エ								260				
	評論キーワード	ア・エ									264				
前見返し	評論文のテーマを理解する			ア							①②				
後見返し	情報探索と利用の方法		エ								④⑤⑥				
配当時数合計		A 話すこと・聞くこと										22			
		B 書くこと											32		
		C 読むこと													16
		合計													70